

SDGs 未来都市にふさわしい環境政策の推進について

環境局所管計画 令和5年度報告

- I 北九州市環境基本計画の進捗報告について
(総務課) 2 P
- II 北九州市地球温暖化対策実行計画の進捗報告について
(グリーン成長推進課) 24 P
- III 第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画の進捗報告について
(循環社会推進課) 42 P
- IV 第2次北九州市生物多様性戦略の進捗報告について
(再生可能エネルギー導入推進課) 68 P

北九州市環境基本計画の進捗報告（令和5年度実績）について

【進捗評価方法】

- ・第65回環境審議会（令和5年8月16日開催）において報告した進捗評価方法の見直しに沿って評価した。

政策目標	進捗評価方法
第1 市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立	北九州市行政評価を活用する
第2 2050年の超低炭素社会とその先にある脱炭素社会の実現	「北九州市地球温暖化対策実行計画」の進捗評価をもって評価とする
第3 世界をリードする循環システムの構築	「第2期北九州市循環型社会形成推進基本計画」 「第2次北九州市生物多様性戦略」の進捗評価をもって評価とする
第4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上	北九州市行政評価を活用する

1 総合評価

【政策目標の状況】

○政策目標1及び4について、北九州市行政評価を活用して、主要事業を4段階で評価。

- ・大変順調（成果指標達成率 120%以上）
- ・順調（ // 60%以上～120%未満）
- ・やや遅れ（ // 40%以上～60%未満）
- ・遅れ（ // 40%未満）

○評価の結果、「大変順調」は14.8%、「順調」は79.6%、「やや遅れ」が7.4%。

政策目標	事業数	大変順調	順調	やや遅れ
1 市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立	34	4 (11.8%)	27 (79.4%)	3 (8.8%)
4 将来世代を考えた豊かなまちづくりと環境・経済・社会の統合的向上	21	4 (19.0%)	16 (76.2%)	1 (4.8%)
合計	55	8 (14.5%)	43 (78.2%)	4 (7.3%)

※やや遅れの事業

- 政策目標1 「KitaQ Zero Carbon関連プロジェクト創出事業」「市民環境力支援事業」（環境局環境学習課）
「NPO・市民活動促進事業」（総務市民局市民活動推進課）
- 政策目標4 「北九州市空き家リノベーション促進事業」（都市戦略局空き家活用推進課）

2 政策目標1の主な取組状況

市民環境力の更なる発展とすべての市民に支えられた「北九州環境ブランド」の確立

■ 北九州市環境首都検定の実施

環境学習の機会を増やし、環境意識のレベルアップや環境に関心を持つ市民の裾野を広げることを目的に、平成20年度から実施。令和3年度から全区分でWEB受検開始。令和5年度は、12月3日(日)に西日本総合展示場及び市民センター(志井、島郷)で実施。目標5,500人に対し4,669名が受検、2,232名が合格。

【区分別内訳】	受検者数	合格者
ジュニア編	3,301名	1,731名
中高生編	648名	118名
一般編	650名	355名
上級編	70名	28名



■ SDGs環境アクティブ・ラーニングの実施

「SDGs未来都市」への選定を受け、小学校4年生を対象に、環境ミュージアムやエコタウン等関連施設での体験的な学習および環境教育に関する研究を推進することにより、環境教育の充実を目指す。令和5年度は、目標の全小学校126校のうち113校に環境学習を実施。

■ 広げよう食品ロス・生ごみ削減の環づくり事業

「残しま宣言」運動、フードバンクと連携したフードドライブ、市民団体とともに生ごみリサイクル講座などを実施。市民1人一日あたりの家庭ごみ量は433g、市民アンケート調査における食品ロス削減の取組実施率は56.5%で推移。

■ アジアにおける環境国際協力

アジア地域の国・都市が自らの力で環境改善の取組を進めることができるよう、JICAや関係機関と連携し、国際環境研修を実施。令和5年度は、目標460人に対し374人に研修実施。



評価結果が「やや遅れ」の事業（3件）

■ KitaQ Zero Carbon関連プロジェクト

学生中心の市民参加型啓発イベント等の企画・実施を、プロジェクトパートナーとの連携を含め一体的にサポートし、Z世代への訴求力を高め、次世代リーダーの育成、民間主導の自発的プロジェクト創出を促進。令和5年度は、ポータルサイトへのアクセス数が15,221件と目標の25,000件を下回った。

■ 市民環境力支援事業

<エコライフステージ2023> R5年11月11日(土)~12日(日)
<地域の環境活動支援事業> 通年(まち美化、環境学習、企業の環境イベント等)
令和5年度は、エコライフステージに関連する行事数は332と目標の200を上回った。一方で参加者数は約83万7千人と若年層への周知が難しく目標150万人を下回った。



■ NPO・市民活動促進事業（北九州市市民活動サポートセンターでの取組）

市民活動の促進に加え、NPOと行政の協働を推進するため、活動や協働等に関する相談・助言、情報提供、研修・啓発等を実施する。

令和5年度は、新規設立NPO法人数は10法人であり目標の15法人に対し順調に推移するも、サポートセンターの利用者数が10,231人と目標の20,000人を下回った。

3 政策目標4の主な取組状況

将来世代を考えた豊かなまちづくりと
環境・経済・社会の統合的向上

■ 大気、水質等の現況

環境法令に基づき、大気汚染や水質汚濁、騒音・振動などの一般環境について、継続的にモニタリングを実施。令和5年度の環境の現況は、前年度の状況に比べ大きな変化はなく概ね環境基準に適合。

■ 工場・事業場監視事業

市内の工場・事業場に対し、環境法令に基づき、立入検査及び排ガス・排水中の規制項目に関する測定を実施。

市民からの公害関係の苦情・要望を受け、発生源に対する指導を実施。

令和5年度の公害に関する苦情・要望件数は236件であり、目標の300件以下を下回った。

■ 環境未来技術開発助成事業

新規性、独自性に優れた環境技術の研究開発費の一部助成により、中小企業をはじめとした地元企業等に技術開発の機会を提供するとともに、本市における環境分野の技術の集積を促す。

令和5年度までの助成件数（累計）のうち、事業化した件数は42件であり、目標の40件を上回った。

また、採択状況についても、着実に件数を伸ばしている。

■ 環境首都総合交通戦略の推進

令和5年度は、各種イベント出展や公共交通市内1日無料デーなどの取組を通じて、公共交通の利用促進を図った。



■ 橋梁・トンネル・モノレール等の長寿命化への計画的な取り組み

市内の橋梁、トンネル・モノレール等の老朽化に対し予防保全観点から計画的に長寿命化を実施。

評価結果が「やや遅れ」の事業（1件）

■ 北九州市空き家リノベーション促進事業

空き家の増加を抑制するため、空き家のリノベーション工事に要する費用の一部を補助し、空き家の活用を促進する。

令和5年度から、補助対象を、子育て・高齢化等対応工事等の複雑な補助メニューの解消と、住宅の脱炭素化を推進する観点から、エコ工事のみに見直したが、エコ化対応にかかるリノベーションの実施件数が44件と目標の100件を下回った。